

トンボ 作りたい！ 岡山市立高田幼稚園（岡山県岡山市）

2 学期当初、親しみやすくすぐに楽しめる「とんぼのめがね」の歌を楽しもうと考えた。以前は自作のエプロンシアターを工夫して使い楽しんだが、今年はトンボの製作を楽しめるようにしようと考えた。

準備：・本物のように木の枝に止まるようなトンボができる材料を用意する。

・作ったトンボを止まらせるための自然物（カズラ）で作った籠（日々草、えのころ草をそれぞれ生けたもの2つ）

1 保育者が歌いながらトンボを作り、作ったトンボを籠に止まらせる

保育者が歌いながら、子どもたちの前で歌詞に合う色でトンボを作り、用意した籠に止まらせる。

「あっ、止まった」と驚いたり不思議そうに見たりする。

5 歳児：「これは、バランスで止まるとんじゃ」

4 歳児：「一輪車もバランスで乗れるんじゃ」

など話が出る。



2 製作に必要な材料を設定する（線の通りに丁寧に切らないと止まらない）

油性マジック（きれいな色が付くように）、印刷したトンボ（台紙）、みんなのトンボが止まれるように割り箸を突き刺した籠を、敷物を敷いた机の上に用意する。

線に沿って丁寧に切ろうと思う気持ちになるように言葉をかける。

「トンボを作りたい！」と言い、次々と作り始める。

4 歳児でも、丁寧にはさみを使って切ったり、羽の模様のデザインを考えて色を塗ったりする姿が見られた。



3 自分で試したり工夫したりして製作を楽しめる設定をし、助言する

自分の独自のトンボを作って挑戦してみようという気持ちになるような言葉をかける

「もう一匹作っていい？」と言う子どもに、保育者は「丁寧に作るのなら、いくら作ってもいいよ」と言い、ひとり一人に応じた対応をする。

「トンボを切った残りの紙で自分のトンボを作って、そのトンボが止まったらトンボ作りのチャンピオンになれるね」と声をかけ、自分で試したり工夫したりして、挑戦意欲が湧くような言葉をかける。

シオカラトンボ、アキアカネ、アカトンボ、オニヤンマなど、トンボの種類や大きさ、色、模様に興味をもってトンボ作りをする子どもがいる。製作コーナーから自分で材料を選び、自分でトンボが止まる台を作る。

< 考察 > 幼児の主体的な活動を確保するための物的・空間的環境とは
幼児の興味・関心のある事柄を揺さぶるような教材や環境
ゆったりした時間・語りかけ・空間
生活の中から生まれ、生活に帰っていく環境
いろいろな人やものと温かいふれあいのある環境
少し抵抗があり、挑戦したいという思いにかられる環境



みどころ

トンボの特徴として、見た目の形や色、大きさだけでなく、「何かの先に止まる」という習性に子どもたちは気付いています。そして、作ったトンボがバランスよく木の先に止まると「あれ？」「止まった！」と不思議さを感じ興味をもっています。たくさんの説明がなくても、知っている「バランス」という言葉を使って、少し難しいことに挑戦することを楽しむ環境の工夫がされています。